

協働的な学びを活かした中学校理科気象の授業実践

令和 4 年度入学熊本大学大学院 教育学研究科教職実践開発専攻
教科教育実践高度化コース

研究報告書要旨

本実践は、中学校理科の学びをより深めるための「協働的な学び」や「学びの振り返りの充実」を活かした授業の実践を目的とする。本研究で実践した単元は、「地球」領域の「第 2 学年 気象とその変化」である。実践①では天気の変化について、実践②と実践③では日本の気象について扱った。筆者は 3 つのねらいを持って授業を計画して実践した。1 つめは、気象分野において「どのような協働的な学びができるのか」という手段を探ることである。2 つめは、子どもたちがワークシートやホワイトボードから「どのような学びをしたのか」などの学習の過程や結果を分析することである。3 つめは、学習の振り返りを分析することで「学びを通して得たものは何か」を明らかにすることである。生徒の記述から協働的な学びの持ついい面や改善すべき面を分析し、改善方法を検討してまとめた。

中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説理科編では、これからの時代に求められる資質・能力の育成に向けて「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進について述べられており、学びにおける対話の重要性が示されている。筆者はこの「対話」に着目し、気象分野の理解が難しい課題に対して「協働的な学び」を活かすことで解決できるのではないかと考えた。課題解決のための協働的な学びとは、個人では解決することが難しい課題に対して、班で自分の意見や考えを伝えあい、互いに足りない情報を補い合うなどして課題解決に向かう学習である。本実践では、「個人で考える」「班でまとめる」「発表」の流れで課題解決の学習を進め、ワークシートやホワイトボードの記述から協働の結果を分析した。分析結果から協働的な学びにより生徒間でどのような学びが生まれたかを考察した。

また、協働的な学習活動をより充実させることを目的として振り返りの充実も取り組んだ。自身の学びに関する自己評価や学びを通して得た疑問や感想などの振り返りの記述から協働的な学びへの意識について分析し、考察した。

本実践で、筆者は協働的な学びや学習の振り返りが生徒に与える影響を確認し、その意義と有用性を検討することができた。また、実践より協働的な学びの持つ課題を見いだし、改善方法を示すことができた。